

Topic 1

◇文理選択の「鉄則」と「裏技？」

高1生は、高2で選択する科目を選ぶ「文理選択」の時期ですね。「文理選択」では、何を基準にして決めればよいか分からない人が多く、よく相談を受けます。俊英館では、入試情報の知識が豊富なスタッフが、一人ひとりに合わせた選択の相談に乗ります。少しでもわからないことがあったらぜひ声を掛けてください。



◇理系でしかなれない職業

理系の大学を卒業しないと資格が得られない職業があります。

次の職種を志望する人は、迷わず理系を選択しましょう。医師、獣医師、薬剤師、建築士などです。

理系の大学を受験するために、数Ⅰ・A、数Ⅱ・B、数Ⅲが必要で（薬学部は数Ⅲが必要ない大学もあります）、理科も基礎科目に加えて、いわゆる「基礎なし」の物理、化学、生物のいずれかが必要になります。ほとんどの高校では、理系を選択しないと理科の「基礎なし科目」の授業は受けられません。

◇文系が有利な職業

弁護士、司法書士、学芸員などは、文系の大学を卒業すると有利になります。試験の一部が免除されたり、大学に資格取得のための講座があったりするからです。

文系に進むと、「受験では数学を選択できない」と考えている人がいますが、そんなことはありません。多くの大学の文系学部（法学部・経済学部・文学部など）の入試で数学が選択できます。「数学が得意なのでそれを活かすために、法学に興味があるけれど理系を選択しよう」ということで、数学を活かしながら文系学部を受験できるので安心してください。また、何より得意科目を選択しておくことで、「評定平均」が上がり、推薦での大学合格の可能性が高まります（ただし、高3で選択する数学Ⅲは、数学が好きだとしても文系志望の人が選択してはいけません。ほとんどの場合負担になり、メリットはゼロからです）。最終的な受験科目の決定にあたっては、志望大学の入試要項を必ず確認してください。

◇選択しておく有利な科目

文系を選択した人の中でも多くの人々が理科の科目で選択を迷います。理科の基礎なし科目は文系の人には原則避けましょう。基礎なし科目は理系で専門的に学ぶ人が受験で使用します。文系の人には基礎科目の中から選択します。地学>生物>化学>物理の順で暗記の割合が多く、物理は最も計算量が多く数学に近い科目です。数学が得意な文系の人々は物理を選択してもよいわけです。暗記が得意な人は地学または生物を選択しましょう。

また、受験では必ずしも選択しなくてよいが、大学に入ってから使うので受験の時でもできれば選択をしておいたほうがよい科目があります。看護師であれば生物・化学、工学部志望なら物理、管理栄養士なら生物・化学、薬剤師なら化学・生物です。



◇文系・理系が決めきれない人は…

やりたいことが決まらないために文理選択に迷う、得意科目と不得意科目にそれほど差がないために迷うという人がいます。可能性を狭めない文理選択をすることがポイントです。

迷ったら理系を選択。これが鉄則です。理由は、理系を選択した後に自分に合わないことが分かったら文系に変更することもできますが、文系を選択した後に理系に変更するのは現実的ではないからです。入試のために理系科目を自分で勉強することは非常に負担が大きいです。文系科目は暗記科目が多いので、逆はなんとかなります。

◇裏技?! 選択に迷いはつきものです。試験でも「最後の2択で迷った。逆を選んでいけば正解だったのに!」という経験はだれでもあると思います。そんな選択に迷ったときの考え方は、選択が間違ったと仮定したときの後悔する度合いを比較し、「後悔の度合いが低いほうを選択する」です。

Aを選択して間違ったときに後悔する度合いと、Bを選択して間違ったときに後悔する度合いを比べて、その度合いが低いほうを選択します。逆を選んで間違ったら、より大きな後悔が待っています。「こっちを選んで間違ったらしょうがない」と潔く決断することが大事です。この考え方も参考に、より良い「文理選択」をしてください!



1 私大入試 目立つ追加合格

近年、私立大学入試で追加合格が目立つ「異変」が起きている。その理由は、大学の定員管理が難しくなっているからである。少子化の進行にともない定員割れをする大学が増え、文科省は定員を大きく超えて入学させる大規模私大の補助金をカットするなど厳しい方針をとっている。そのため、まず少なめに合格者を発表し、他の大学の状況も見ながら追加合格で対応する大学が増えているのである。

多くの私大は、合格発表後1週間ほどで入学金の納付を締め切り、その後前期の授業料や諸費用を納める方法を採用している。国公立大との併願先になる私大のほとんどは、この最終締め切り日を、国公立大の合格発表日と合わせている。

「滑り止め」だった大学に入学金や授業料を納めた後、第一志望の大学に追加合格したら、お金はどうなるのか？最高裁は2006年の判決で、3月末までに入学辞退した場合の授業料の返還義務を認めている。大学に申し出れば、原則として返ってくるはずである。ただ、入学金は「入学できる地位の対価」として返還義務の対象とされていない。

2 共通テスト 全ての国立大で外部検定と記述式を活用へ

2021年1月から大学入試センター試験に代わって実施される「大学入学共通テスト」では、国語と数学に記述式問題を導入するとともに、英語では筆記とリスニングに加えて、「聞く・読む・話す・書く」の4技能をすべて評価するため、大学入試センターが認定した外部の資格・検定試験(受験の年の4~12月に2回まで)を併用することになっている。結果をどう活用するかは各大学に委ねられているが、国立大学協会(国大協)は、一般選抜で両方を全受験生に課すとするガイドラインを策定した。公私立大学にも、大きな影響を与えるものと見られている。

ガイドラインでは、資格・検定試験について、5教科7科目と同様、一般選抜の全受験生に課すことを確認している。具体的には、次のいずれか、または両方を組み合わせて活用するとしている。1. 一定水準以上の認定試験の結果を出願資格とする。2. CEFRによる対照表に基づき新テストの英語試験の得点に加点する。また、国語の記述式問題は段階別で成績が表示されるが、国立大学ではこれを点数化し、マークシート式の得点に加点することを基本にしている。数学はもともとマークシート式問題と一体で出題されるため、同センターの配点に従うことになる。



東北大学



東京大学



京都大学



九州大学

3 「教育成果」を評価する大学ランキング

英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)」が国内の大学の「教育成果」を測って順位づけする「THE 世界大学ランキング日本版 2018」が発表された。

このランキングは、「企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査」と「高等教育機関研究者の評判調査」という2種類のアンケート結果による。国内の企業と、大学の実状に詳しい世界の研究者から見た「教育成果」を順位づけしたものである。

「教育成果」ランキング 上位30校 「無印は国立, ◎は公立, ☆は私立」

1位	東京大学 98.9	11位	一橋大学 89.1	21位	◎大阪府立大学 68.3
2位	京都大学 98.6	12位	筑波大学 88.1	22位	☆立命館大学 66.9
3位	九州大学 97.7	13位	広島大学 76.6	23位	◎首都大学東京 65.3
4位	☆慶應義塾大学 97.2	14位	☆東京理科大学 73.2	24位	秋田大学 65.0
5位	東北大学 95.6	15位	横浜国立大学 72.9	25位	☆同志社大学 64.9
5位	名古屋大学 95.6	16位	千葉大学 72.0	26位	◎大阪市立大学 64.8
7位	大阪大学 95.4	17位	◎国際教養大学 70.6	26位	名古屋工業大学 64.8
8位	北海道大学 94.8	18位	東京農工大学 69.6	26位	☆甲南大学 64.8
9位	東京工業大学 94.7	19位	☆上智大学 69.4	29位	九州工業大学 64.7
10位	☆早稲田大学 93.8	20位	神戸大学 69.3	30位	岡山大学 64.4

◇ 大学入試を基礎から知る *高2・3向け

第3回 <センター試験とは?>

“ 大学入試の第一関門 ”

「高校における基礎的な学習の達成度を判定すること」を目的とし、毎年1月中旬に全国で一斉に行われるのがセンター試験です。今春2018年度入試の志願者数は約58万人で、そのうちの約8割を現役生が占めました。国公立大入試では、センター試験と個別試験(2次試験)の合計点で合否が決まるため、センター試験はいわば一次試験の意味合いがあります。また、私立大でもセンター試験利用入試を実施する大学が9割以上となっており、大学志望者のほぼ全員が受験する試験といっても過言ではありません。

志望大学の指定する教科・科目を受験

各大学・学部・学科ごとに、センター試験で課す教科・科目を設定しているため、志望する大学・学部・学科が指定する教科・科目を選択して受験します。

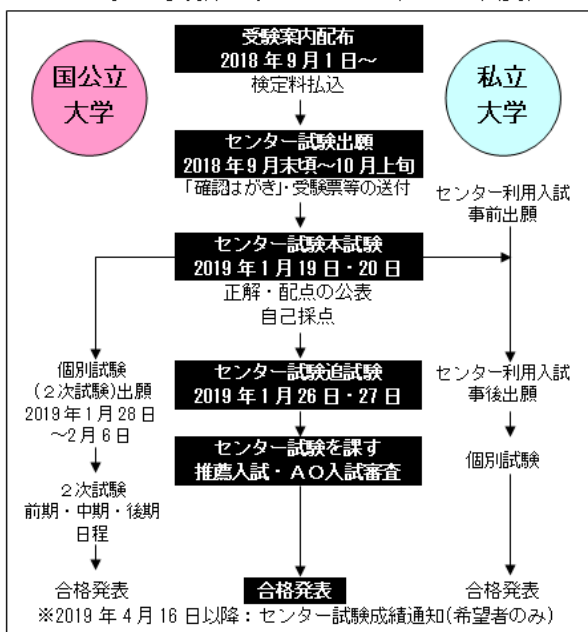
マークシート方式、2日で実施

センター試験は、全教科全科目について、出題形式がマークシート方式で実施されます。出願期間は9月末頃～10月上旬となっており、現役生の場合は高校を通じて出願することになっています。試験は、1月中旬の土・日に2日間にわたって実施されます。

国公立大は自己採点して出願校決定

試験後、公表された解答や配点を見て自己採点を行います。国公立大を受験する場合は、その自己採点結果をもとに、出願する大学を決めることになります。合否はセンター試験と大学ごとの個別試験の総合点で判定されます。配点の比率は大学、学部によって大きく異なるので、注意が必要です。私立大学のセンター試験利用入試は2～3教科が中心で、センター試験の成績だけで合否を判定する場合はほとんどですが、一般的に募集人数が少ないため、高倍率になりやすい。

センター試験スケジュール(2019年度)



センター試験の教科・科目・配点(2019年度)

教科	科目	時間/配点
国語	「国語」	80分/200点
地理歴史	「世界史A」「日本史A」「地理A」 「世界史B」「日本史B」「地理B」	●1科目選択 60分/100点
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理, 政治・経済」	●2科目選択 120分/200点
数学①	「数学I」「数学I・A」	60分/100点
数学②	「数学II」「数学II・B」	60分/100点
理科①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	●2科目選択 60分/100点
理科②	「物理」「化学」「生物」「地学」	●1科目選択 60分/100点 ●2科目選択 120分/200点
外国語	「英語」	【筆記】 80分/200点 【リスニング】 30分/50点

※数学②では『簿記・会計』『情報関係基礎』も選択できます。